

総 評

国語がやや難しく、理科がやや易しめでしたが、全体としては平均的な難易度の出題でした。

中1のはじめに学習した内容は、3年間の学習の中ではほんの一部ですが、受験に向けての学習を積み上げるための土台ともいえるべき重要な内容です。小さなミスも見のがさず、間違えた原因をよく考え、しっかり復習してこれからの学習に備えてください。

道コンのようなテストは、高校に合格できるかどうかを予測するためのものではなく、目標に対する現在の自分の位置を確認するためのものです。どんな目標も、これからの学習次第では、近づいたり、遠のいたりします。結果がよくても安心せず、結果が悪くてもあきらめずに、目標をはっきりさせて学習を進めてください。

国 語

やや難しい出題でした。

㊦は、(5)「補助」を書く問題の得点率がやや低くなりました。形が似ている「ネ(しめすへん)」と「ネ(ころもへん)」は間違いやすいので、細かな形の違いまで意識し、正しく区別して書けるようにしましょう。㊦は、問六の得点率が低くなりました。「女子」の順位の変化について着目する問題でしたが、「男子」の順位の変化に言及している解答が少なくありませんでした。実用的文章では、会話の流れを正しく読み取ることが大切です。㊦は、問六の得点率がやや低くなりました。白紙解答が全体の四割ほどありました。長文記述の問題を飛ばす生徒がやや多いように感じます。㊦は、問四の得点率がとても低くなりました。残り時間が少なく、問題文の条件が難しかったためだと考えられます。

数 学

標準的な難易度の出題でした。今回の出題範囲である「正負の数」や「文字の式の表し方」は、今後学習する「方程式」をはじめとした全ての分野の基礎となります。不明点を残すことなく、秋以降の学習に備えましょう。

①では、分数の計算での符号の誤りが目立ちました。間違えた原因をしっかりと突き止めて、二度と同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。③は正負の数の応用問題でした。問1では、計算の順序の誤りが目立ちました。計算過程はあとから見直しができるように書きましょう。④は「文字の式」の問題でした。問1のように数量を文字の式で表す問題は、今後のさまざまな単元につながっており、必ず身につけたい技術です。問題集などを利用してたくさんの問題に取り組み、表し方を身につけましょう。

社 会

標準的な難易度の出題でした。

地理分野では、計算が必要な資料問題の得点率が低くなりましたが、①問3、③問3などの基本的な問題はよくできていました。

歴史分野では、⑥問1、⑦問6のような完全解答の問題の得点率が低くなりました。また、⑦問5の「邪馬台国」の「邪」「台」、⑨問1(1)の「壱田永年私財法」の「壱」、⑨問1(3)の「大宰府」の「大」「宰」は漢字の間違いが多く見られました。正しく書いたつもりなのに×になっていた人は、正しい漢字で書く練習をしておきましょう。社会科は資料を利用した問題が増えています。基本的な知識を問う問題も出題されますので、わかっている問題は確実に得点できるようにしておきましょう。

理 科

やや易しい出題でした。

今回は基本的な内容が多く出題されていました。間違えたところの他に、すぐに答えが分からなかったところや、悩んだところも、しっかりと教科書などで復習して、今のうちに確実に身に着けておきましょう。

語句を答える問題や、知識中心の問題はよくできていましたが、計算問題や、実験や観察の結果をもとにして思考するものなど、思考力や応用力が必要とされるような問題は得点率が低くなるものが多かったようです。

これらの問題の対策はくり返し演習をかさねることが重要です。暗記だけでは高い得点をとることはできません。学習した内容が多くない今の時期に取り組んでおくと、優位に立つことができます。後回しにせず早くから始めておくことが大切です。

英 語

標準的な難易度の出題でした。英文を書く際は、基本的なルール(スペル・文法・語順など)を守り、自分の考えが正しく伝わる英文を書くことを心がけましょう。

①のリスニングは比較的よくできていました。②は設問ごとに得点率のばらつきが見られました。問1(3)では、umbrellaのスペルミスが目立ちました。また、問4の和文英作では、文法上のミスによる減点が多く見られました。③、④の適語補充や英作文は、全体的に得点率が低めでした。excitingやinterestingなど、単語のスペルミスにも注意しましょう。

英語は2学期から学年末にかけて、少しずつ難易度が上がっていきます。苦手意識のある人は、まずは英単語や基本文法の復習から取り組み、確実に使える知識を増やしていきましょう。